

トレンド提言

「釜戸の煙」

－ 民意を汲みとる政治を実現したい －

第16代仁徳天皇が、釜戸の煙が少ないのを見て税を免除したという話が古事記に記されている。俗に聖帝の世といわれる。

つまり、民の貧しさを思いやって租税を免除したという、現代社会ではあり得ない、しかし権力者が学ぶべき範たる美談である。

【原文】

ここに天皇、高き山に登り四方の国を見て詔らさく、「国の中に烟發たず、國、皆、貧窮し。故、今より三年に至るまで悉く人民の課役を除け。」是を以ちて大殿破れ壞れて悉く雨漏ると雖ども都て修理うこと勿し。槓を以ちて其の漏る雨を受け、漏らぬ處に遷り避りき。

後に国の中を見るに国に烟滿ちき。故、人民富めりと爲て、今は課役を科せき。是を以ちて百姓榮え、役使に苦しまず。故、其の御世を稱えて聖帝の世と謂う。

【現代語訳】

仁徳天皇、高い山に登り四方の国を見言いました。

「国の中に釜戸の煙が出ていない。国中のものは皆、貧窮している。だからこれから三年の間、すべての人民の課役（＝エツキ＝課税と使役）を免除しよう」

そのために天皇の住む大殿が破れ壞れて、ことごとく雨漏りしても修理しませんでした。箱で漏る雨を受け、雨漏りがしていないところに避難していました。

その後（三年経って）、国の中を見ると、国中に釜戸の煙が満ちていました。人民が豊かになったな、と判断して、今は課役を科しています。それで百姓は榮えて、役使に苦しまなくなりました。仁徳天皇の時代を讃えて聖帝（ヒジリミカド）の世といえます。

【古事記】

日本現存最古の歴史書、文学書。3巻。序（上表文）によれば、天武天皇の命（681年）によって稗田阿礼（ひえだのあれ）が「誦（しょう）習」していた『帝紀』『旧辞』を、元明天皇の命によって太安麻呂（おおのやすまろ）が「撰録」し和銅5（712）年献上したものである。しかし、「誦習」「撰録」の具体的内容については諸家の説が分れ、また序を疑う説、ひいては『古事記』そのものを偽書とする説もあるが、上代特殊仮名づかいの存在により和銅頃の成立であること

は**确实**。天地の始まりから推古天皇の時代までの皇室を中心とする歴史を記すが、**実質的には神話、伝説、歌謡、系譜が中心で、そのため史料としてはそのまま用いがたい面が多いが、逆に文学書としては興味深い存在といえる。**

[出所] ブリタニカ百科事典

ちなみに、3巻の概要をみると、

上巻は、天地の始まりから推古天皇（第33代）の時代までの神話や伝統。
天照大神、大国主神、ににぎのみことなどが登場する。

中巻は、神武天皇～応神天皇（15代）間における皇室を中心とする歴史。
神武天皇は137歳、考安天皇（6代）は123歳、崇神天皇（10代）は168歳、景行天皇（12代）は137歳など、天皇の紀元は疑わしい。

下巻は、仁徳天皇（16代）～推古天皇（33代／554-628年）。
この時代でも雄略天皇（21代）は124歳没とある。

以上のことから、**古事記は歴史書とみるには大いに疑義がある。従って日本国の紀元、建国の歴史の根拠とすることにも問題がある。**

だが、創作的歴史物語として見ることはできる。仁徳天皇の「釜の煙」もこうした視点から参考にしたい。

◎「釜の煙」から学びたい

最近の政治動向を見ていると、わが国の政治の主人公は誰なのかと疑わざるを得ないことが多い。

憲法には「～そもそも国政は、国民の崇高な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する」とある。

国政は果たして憲法に則って運営されているのだろうか。事例を見てみよう。

○米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設を巡る県民投票

沖縄県民は、名護市辺野古の新基地建設を認めない意思を明確に示した。安倍政権はこれまで、新基地建設の是非が問われた知事選などの結果を民意の現

れと受け止めることを避け、計画を進めてきた。だが今回の県民投票は、直接民主主義の手法に基づき、単一争点で行われた。

沖縄県民投票の結果（最終確定：2019年2月25日）

	票 数	得票率	投票資格者比
反対	43万 4273	72.15%	37.65%
どちらでもない	5万 2682	8.75%	4.57%
賛成	11万 4933	19.10%	9.96%
合計（有効投票）	60万 1888	投票率 52.48%	
無効・不受理など	3506		
投票資格者総数	115万 3591人		

この民意に対して安倍首相は「結果を真摯に受け止める」と述べたが、辺野古移設は進める考えを明確にした。また、玉城沖縄県知事が提唱している、日・米政府、沖縄県の三者間の協議についても回答を避けている。

これでは沖縄県民の民意だけでなく、日本国民の主権も政府が否定したと言える。

○「勤労統計不正問題」予算委委員会質疑をみる

2月18日の衆院予算委員会で、野党の質問中に一瞬、議員らが静まりかえる場面があった。立憲民主党会派の小川淳也議員が、厚生労働省の毎月勤労統計の不正問題で、政権と数値論争を繰り広げているむなしさを吐露した時だった。「もしこの国の首相が、良い数字を（官僚が）持ってきたら『良い数字はもういいから。どこかに悪い数字はないのか。そこで困ってる国民はいないか。そこに社会の矛盾が埋もれていないか』と言うような首相だったら、こんな数値論争は起きてないじゃないか」

野党側は、官邸主導で統計を恣意的に操作したのではないかと追求している。一方、安倍首相は「当時の秘書官から報告を受けていない」と一貫して関与を否定している。

■問題はどこにあるのだろうか。

- ・統計が不正に行われたなどは論外だ。問題はなぜに不正が行われたのか、そこを明らかにすることだ。
- ・実質賃金、可処分所得に関しては平均値では「アベノミクス」の評価を正確

に判断することはできまい。経済格差が進行している状況に即した大企業、中小企業別の統計が求められる。

- ・大切なことは実質賃金の上昇を実現でき、莫大な内部留保を有する企業にどう対処するのか。増税するか否か。一方、実質賃金は上がらず、可処分所得は物価上昇もあり目減りしている勤労者対策をどうするのか…について論議することが予算国会の使命だ。
- ・政権が予算国会を政権延命のための喧伝の場とすることを国民は望んでいない。「釜の煙」が見えなくならぬよう民意を汲み上げる政治が求められる。

○経済統計学会「政治権力からの独立」を声明

大学教授らでつくる経済統計学会（会長・金子治平神戸大院教授）は3月6日、毎月勤労統計の不正調査について「真実性という存立基盤を覆すもの」と批判する声明文を、東京・霞が関で開かれた総務省統計委員会の会合で提出した。

声明では、戦時期に実態を反映しない統計が無謀な戦争へ駆り立てたことに触れ、「(統計)関係機関は政治権力から独立でなければならないという社会的使命を確認するよう願う」と求めた。

正に当を得た声明である。戦時下においては、大本営の戦況発表は「戦果」を過大に誇張し、「わが方の損害は軽微なり」を繰り返した。結果は日本国民にとり返しのつかない惨禍をもたらしたのであった。

○「あなたに答える必要ない」

菅義偉官房長官が2月27日の記者会見で、東京新聞記者が2月26日に会見の意義などについて質問したのに対して「あなたに答える必要はありません」と述べたことについて、撤回や修正の考えはないと明言した。政府のスポークスマンによる特定記者の質問排除につながる発言に、野党からも批判が上がっている。

国会での質疑では質問に対してまともに答えず、はぐらかす場面はよくある。だが今回の菅官房長官の記者会見の言動は、国会の場ではないにせよ、権力者の横暴がここまできたかと思われる。

トランプ大統領の一部記者に対する差別的会見を観たことはあるが「菅さん、お前もか」と言わざるを得ない。

権力者は「国民の厳粛な信託」により選ばれたことを終始忘れてもらっては困る。民意に誠実に耳を傾けることは基本的な政治家の職責である。

◇宮沢賢治に学びたい

雨にもまけず

風にもまけず

(中略)

東に病気のこどもあれば

行って看病してやり

西につかれた母あれば

行ってその稲の束を負い

南に死にそうな人あれば

行ってこわがらなくてもいいといい

北にけんかやそしょうがあれば

つまらないからやめろといい

(後略)

賢治は自然を愛し、民の暮らしを大切にしたい詩人だった。職業的な政治家ではなかったが「経世済民」を目指した。方や最近の政権の動きはどうだろうか。

- ・秋篠宮が大嘗祭の公費支出に疑問を出しても耳をかさず。
- ・沖縄県民の大半が辺野古新基地に反対しても民意を無視。
- ・国民は「景気の実感なし」、政府は「戦後最長の好況」という。
- ・年金暮らしの高齢者、アルバイトの学生たち、可処分所得低下の国民の声きかず消費税増税に走る。
- ・アメリカの兵器爆買い。国民、国会の意見きかずトランプの要求きく。いつからトランプ政権の閣僚になったのか。
- ・オリンピック、地元の人たちの6割が復興五輪と思わないと。政府は「復興五輪」と言い張る。
- ・「成果」は自分のもの、失敗は他者に転嫁する。責任転嫁能力の高い者が権力の座を奪う。
- ・「国民に寄り添う」のではなく、国民と一体となって苦楽を共にすることはできないのか。敗戦時、関東軍の幹部が国民を大陸に残して、我れ先にと逃げ帰国した醜態を想起する。

失態を重ね続けた 誤倫(五輪)大臣

かばいきれずに 桜散り去く^ゆ

(五輪憲章も読まなかった桜田大臣。安倍首相かばいきれずに辞職)